

A Partnership Development Process Assessment Scale for Public Health Nurses in Japan

重松, 由佳子

<https://doi.org/10.15017/1500547>

出版情報：九州大学, 2014, 博士（看護学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：全文ファイル公表済

氏名：重松 由佳子

論文題名：A Partnership Development Process Assessment Scale for Public Health Nurses in Japan

(日本における保健師の地域組織とのパートナーシップ構築プロセス評価尺度の開発)

区分：甲

論文内容の要旨

本論文の目的は、保健師の地域組織とのパートナーシップ構築プロセスを評価する尺度 (Partnership Development Process Assessment Scale :以下、PDPA 尺度) を開発することである。地域における健康課題の複雑化に対応するには、行政機関の活動だけでは限界があり、地域組織との協働が不可欠である。地域保健におけるパートナーシップのプロセスは、オーストラリア等の欧米と日本では異なるといわれている。欧米のパートナーシップ活動は、明確なねらいとターゲットを定めた行政の戦略があり、それに基づき、公衆衛生の専門職が参加する組織を募集し導き評価し改善する、いわば、パートナーシップを戦略的に展開する活動を行っている。しかし、日本のパートナーシップは、専門職の活動の限界の認識と挑戦への思考により始まり、既存の関係のある人々や組織と力をわかちあう関係をつくり、その関係を発展させることに重点を置く活動を行っている。このように、地域保健におけるパートナーシップの活動プロセスは、戦略的に展開する欧米の活動と、既存の関係を発展させ活動を展開する日本では大きな違いがある。しかし、日本のパートナーシップ構築活動の過程は明確にされていないため活動の評価ができていない。このことは、保健師の地域組織との関係性構築の困難さの要因のひとつとなっているため、保健師の地域組織とのパートナーシップ構築プロセスを評価する尺度の開発が必要であると考えた。

PDPA 尺度の開発は三段階で行った。第一段階では、保健師 10 名へ半構成面接を行い、インタビューデータを質的帰納的に分析し、尺度項目案を作成した。第二段階では、尺度項目案の項目の内容の妥当性の検討及び表現の洗練にむけて、専門家に対する質問紙調査を行った。第三段階では、全国 1,742 市町村の保健師に郵送法による自記式質問紙調査を行い、PDPA 尺度の信頼性・妥当性を検討した。

第一段階として行った尺度の項目の生成のためのインタビューの対象保健師は 10 名、全員が女性、年齢の平均は 44.9 才、県の範囲は 5 県、市区町村の人口規模は 1 万 8 千から 67 万人だった。平均面接時間は、77 分 (57~92 分) だった。インタビューデータを質的帰納的に分析し、27 コード、12 の中カテゴリー、5 つのカテゴリーを抽出した。インタビューデータ分析をもとに作成した 27 項目について、保健師のパートナーシップ構築活動について、網羅されているか重複はないかの観点から、文献検討と研究者間の協議をおこない、3 項目を追加し 30 項目の尺度原案を作成した。

第二段階として、専門家の調査により尺度原案の項目の妥当性を評価した。内容的妥当性係数は、各項目は 0.82~1.0 であり、削除する項目はなかった。尺度全項目の内容的妥当性係数は、0.93 であり、30 項目の尺度は、項目の妥当性を保証するものだった。また、

専門家の意見をもとに 12 項目で表現の修正を行なった。尺度の 30 項目は、内容的妥当性の分析で削除基準に該当しなかった。

第三段階として行った郵送法による調査では、3584 通送付し 949 通の返送があり、その中で全項目に欠損のない 901 を有効回答として分析対象とした。質問紙調査の回答者の年齢は、保健師の平均より 40 歳代と 50 歳代が多く、経験豊富な回答者だった。市町村規模は全国と同様の傾向だった。尺度原案の各項目の平均値は 1.00~2.28、標準偏差は 0.74~1.04 だった。項目 19 は、天井効果を示した為、尺度項目から除外した。その他の項目は、天井効果床効果は認められなかった。P-P プロットから全項目において正規性を認めた。項目 19 を除いた項目について、I-T 分析、G-P 分析を行った。各項目の I-T 相関係数は 0.55~0.76 範囲だった。各項目の得点の群間差について t 検定を行った結果、全項目で有意差 ($p < 0.01$) を認め、全項目上位群が下位群より得点が高い値だった。項目間相関係数を算出した結果、5 組で相関係数 0.7 以上の相関を認めた。相関の強い項目について項目の意味内容を吟味し、相関の強い項目に、同様の意味内容が含まれていないかを検討した結果、項目 2、項目 14、項目 29 の 3 項目を削除した。最終的に、天井効果を認めた項目 19 を含めた 4 項目を項目分析で削除し、項目は 26 項目となった。

尺度の構成概念妥当性を検討するため、26 項目の主因子法、プロマックス回転にて探索的因子分析を行った。因子の固有値が 1 以上、項目の因子負荷量が 0.4 以上を示し、かつ複数の因子に 0.4 以上の因子負荷量を示さないことを条件として、因子および項目を採用した結果、1、20、21 の項目を、複数の因子に高い因子負荷量を持つため、除外し、23 項目 4 因子の尺度項目を採用した。尺度の因子構造は「健康課題に対する役割共有にむけた取り組み」、「パートナーシップ推進に向けた基盤整備」、「パートナーシップの評価」、「健康課題に関する情報の発信」であった。4 因子の寄与率は、48.3、4.0、3.4、2.8%で、累積寄与率は 58.4%だった。因子間の相関係数は、各因子間に、有意な相関があった。因子分析で得られた 4 因子 23 項目について、信頼性の検討を行った。折半法の信頼係数は 0.91、評価尺度全体のクロンバック α 係数は 0.95 だった。因子毎の α 係数は 0.82 から 0.92 であり、高い内的整合性が認められた。各項目の除外前の因子と各項目を除外した場合、および各項目の除外前の尺度全体と各項目を除外した場合のクロンバック α 係数を比較した結果、いずれの項目も除外前の因子や尺度全体の α 係数を超えなかった。また、各項目を除外した場合のクロンバック α 係数は 0.95 以上であり、内的一貫性を脅かす項目はなかった。本尺度とネットワーク形成実践技術尺度の尺度全体同士の相関は、相関係数 0.525 であり有意な相関だった。

本研究により、4 因子 23 項目で構成されるパートナーシップ構築プロセス評価尺度を、開発した。本尺度は、信頼性を I-T 分析、G-P 分析、折半法による信頼係数、Cronbach's α 係数により確認した。そして、妥当性を、項目の内容的妥当性、因子分析による構成概念妥当性、基準関連妥当性の検討により確認した。これらの結果は、本尺度が、保健師と地域組織のパートナーシップ構築活動を評価する信頼性と妥当性のある尺度であることを示した。

本研究で開発した尺度の特徴を、因子毎にみると、第一因子【健康課題に対する役割共有にむけた取り組み】の項目では、保健師は、既存の関係の中で、研修やネットワーク形成などの活動の質を高める取り組みにより、地域に資源を豊かにする活動を行い、地域組織のエンパワーを支援し、協力し合える関係を高める活動を行っていた。欧米で行われている戦略的なプロセスでは、根拠に基づいた政策・計画の決定からパートナーシップ構築に向けた活動が始まり人材と資金調達を必要としているが、第一因子では、この欧米で行われている戦略的な活動とは違う、日本の保健師のパートナーシップの特徴を示していると考えられる。

第二因子【パートナーシップ推進に向けた基盤整備】では、パートナーシップにむけた、行政全体の統合したアプローチむけた行政と地域組織との橋渡し役としての活動がしめされた。保健師は、地域組織との活動を通して得た地域の健康課題に関する情報を、行政内部で共有・協議することによって、政策や予算による基盤整備を行っていた。欧米での戦略的なパートナーシップでは、先に政策があり、予算や人員を確保して展開が始まるのに対し、地域に入り込み活動を行う日本の保健師は、行政と地域組織の橋渡しを行う中で、政策や予算を作り出す、重要な役割を担っていた。

第三因子【パートナーシップの評価】では、評価に関する項目だった。本尺度では、評価を、保健師だけでなく地域組織と行い公表することが示されました。こうすることにより、地方自治体の役割として重要である公正性が保たれる。

第四因子【健康課題に関する情報の発信】では、西欧での戦略的な活動にも挙げられている情報や資源の公開の項目がふくまれていた。それに加え、本尺度には、行政の限界を共有する必要性を示していた。日本では、信頼関係を構築しながら、地域の健康課題への各組織の役割を協議していくため、行政サービスでは届きにくい対象や方法に関する情報を発信し共有していくことができる日本の特徴ある活動が示されたと考えている。

このように、開発した本尺度は、日常の活動を通じて、役割共有を行いながら、活動の質向上へ取り組みや活動機会の拡大等の基盤整備を行うという日本の活動展開の特徴を有していた。